

「第13回なくそう1官製ワーキングプア大阪集会の開催報告」

関西支部会員・弁護士 小野順子

(関西支部通信第47号=26年1月号より転載)

去る2025年10月4日、エル・おおさか(大阪府立労働センター)において「第13回なくそう!官製ワーキングプア大阪集会」を開催した。

1 「なくそう!官製ワーキングプア大阪集会実行委員会」について

集会の内容を報告する前に、主催団体について少し紹介しておきたい。大阪集会の第1回開催は13年前に遡るが、その始まりは、東京で同様の集会を開催しておられたNPO法人官製ワーキングプア研究会理事長の白石孝さん(元日本労働ペンクラブ会員)が、大阪でもできないかと数人の在阪メンバーに声をかけて、自らも大阪に出向いて顔合わせ会議を開かれたことがきっかけであった。以後、白石さんは現在に至るまでずっと大阪集会を引っ張ってくださり、超多忙な中で準備のために何度も大阪に来てくださっている。白石さんに最初に声をかけられたメンバーの一人である川西玲子さん(元自治労連副委員長、NPO法人働き方ASU-NET副代表)も、この実行委員会の主要メンバーである。ただ、上記のような核となるメンバーはいるものの、この実行委員会は、誰でも参加歓迎の出入り自由な団体である。

2 3つの分科会

さて、本題に入ろう。大阪集会は、例年、午前中に3つの分科会を開催し、午後から全体会を開催している。今回の分科会は、おおむね、次のような内容で行った。

第1分科会「会計年度任用職員制度 総ざらい」

2020年4月から始まった「会計年度任用職員」。制度発足以来、数々の問題が指摘されているが(むしろ問題しかない制度とも言えるが)、唯一、良かったことは、それまで任用根拠も処遇の基準もバラバラだった全国の非正規公務員が、「会計年度任用職員」という名称で統一され、改善すべき課題が全国共通のものとして認識されやすくなったことである。分科会では、雇止めの問題や地方自治体による改善の動きなど最新のトピックに関する報告があり、我々の運動の方向性を議論した。

第2分科会「委託・指定管理・民営化 自治体は限界!」

地方自治体の仕事の「外注化」が止まらない。民間企業が悪いということではなく、収益を上げなければ死活問題となる民間企業と、時には収益を度外視してでもやらなければ

ならない性質を持つ公共サービスとのミスマッチが起きているのではないか、という問題である。公共サービスの受け手である住民も参加して多面的に検討していかなければならない問題であるが、そのために必要な、実態報告や問題意識の共有がなされた。

第3分科会 「非正規労働者なんでも交流会」

分科会の中では唯一、オンライン参加も可能である。テーマが決まっていないというのも、この分科会の特徴である。官民の非正規労働者を中心に、日々の経験や疑問点などを出し合う交流会的分科会である。当事者団体である「非正規公務員 voices (ボイセズ)」が進行を務めた。最初は遠慮がちだった参加者も、徐々に活発に発言するようになり、即興の法律相談会のようになる場面もあって、知識と交流を深めることができた。

3 全体会

良くも悪くも、毎年「盛りだくさん」と評される全体会である。盛りだくさん過ぎて詳細を述べることができないが、ごく簡単にアウトラインをご紹介したい。

Part 1 「闘いの現場から」

報告者：大阪教育合同労働組合書記長 酒井さとえさん

大阪教育合同労組は、「公務員は使えない」はずの制度である労働委員会へ

の救済申し立てで実績を積み上げ、「非正規公務員は制度的には使えるけど実際は使えない」と言われる人事委員会や公平委員会で成果を勝ち取る最先端の労働組合である。その取り組みを報告していただき「あきらめるな、まだ闘える」というメッセージを、実践をもって発信して頂いた。

Part 2 「動き出した非正規公務員制度」～先進自治体の紹介

① 鳥取調査の報告

報告者：北海学園大学教授 川村雅則さん

2025年度に、鳥取県が「鳥取方式短時間勤務正職員制度」を新設し4人の職員を採用した。非正規公務員問題に関心がある人なら誰しも注目するこの全国初の制度について、現地調査をされた川村教授から詳細な報告をしていただいた。

② 箕面市の処遇改善・一部常勤化

報告者：箕面市臨時職員労働組合書記長 甲斐陽さん

非正規公務員（箕面市の場合は任期付公務員）と正規公務員との「生涯賃金の格差」に着目し、給料表の抜本的改善などを実現。また「常にある業務は常勤職員に」と、スクールカウンセラーなど一部の職種を常勤化。当局との粘り強い交渉と、市議会議員と連携し

た動きで華々しい成果を勝ち取った箕面市臨時職員労働組合の活動について報告いただいた。「これはゴールではなく、スタート地点に立ったに過ぎません」という言葉が頼もしい。

③その他、先進自治体の紹介（学童保育支援員の常勤化（枚方市、八尾市）、愛知県みよし市、高知市など）

報告者：実行委員会委員、NPO法人働き方ASU-NET副代表 川西玲子さん

非正規公務員の処遇改善や雇用の継続化を図り、常勤職員の処遇に近づける努力を始めた自治体が複数存在することを、川西さんからまとめて報告していただいた。

このような自治体の動きの背景には、行き過ぎた「非正規化」による人材不足（待遇のよい他自治体や民間企業に流れていってしまう）があると思われる。

人事制度の改善をしようにも地方自治体の税収には限りがあり、国による制度改革が必要である。

④特別報告 「非正規公務員の真実」

報告者：立教大学特任教授 上林陽治さん

上林さんのゼミ生が取材・執筆された『大学生が伝えたい 非正規公務員の真実——現場から見る課題と未来』（明石書店）という本が出版されたとのことで、取材を通して変わっていく学生の姿をご報告いただいた。（本も面白くてお薦めです。学生の瑞々しい感性に触れて、忘れていた何かを思い出します。）

Part 3 「公務非正規問題の中核としてのジェンダー」

報告者：ジャーナリスト、和光大学名誉教授 竹信三恵子さん（元日本労働ペンクラブ会員）

非正規公務員の大半は女性であり、この問題を語る時、ジェンダーの視点は欠かせない。しかし、大阪集会で、そのことを正面から取り上げる機会がなかなか作れなかった。今回ようやく、待望の竹信さんのご講演が実現した。

男性こそが主体であり、女性はそれを支える人。「夫の扶養家族」という制度のもとで、女性労働者は「安くても困らない人」となっている。その構造を正すべき行政が、逆にその構造をフル活用し、多くの女性非正規公務員を安く使って公共サービスの質を維持している。竹信さんの鋭い指摘に、大いに納得しつつ、でも溜飲を下げてばかりもいられない。この構造を変えていく取り組みに関する提言もなされ、今後の活動の指針が示された。

竹信さんのご講演に続いて、当事者団体「非正規公務員 voices」によるマタハラ調査報告がなされた。同団体は、当事者の視点で様々な実態調査を行い、現場からの告発を行っているユニークな団体である。

Part 4 「自治体議員スピーチ～公共サービスと非正規労働」

地方議会議員との連携は、今後の運動においては必須である。次の方々から、各自治体における取り組みや展望についてスピーチしていただいた。

- ・東京都北区議会議員 青木のぶえさん（立憲民主党）
- ・堺市議会議員 藤本ケンさん（日本共産党）
- ・宝塚市議会議員 梶川みさおさん（社会民主党）
- ・箕面市議会議員 増田京子さん（市民派無所属）
- ・石狩市議会議員 神代知花子さん、

最後の神代（くましろ）知花子さんからは、川村雅則教授とともに取り組んでおられる「公務非正規問題議員ネット」の活動についてご報告いただいた。全国すべての地方議会議員が、この問題でネットワークを作っていただける日を期待したい。

Part 5 「公共サービスの民間委託化の加速」

最後に、やはり民営化の問題である。

① 「自治体「民営化」から公共の再生へ/吹田の事例」

報告者：吹田自治都市研究所 岩根良さん

民間委託や指定管理による弊害（利益重視による安全性の後退等）はたびたび指摘されているが、より根本的な問題は、自治体の業務をどんどん「外注化」することによって、自治体の専門性や企画立案能力が低下し、自治体としての体をなさなくなりつつあるという現実である。岩根さんの緻密な調査やデータ分析に基づいてなされた、その指摘に、恐怖すら感じた。第2分科会で詳細に報告されたことを短時間でダイジェストにてご講演いただいたが、1時間は聴きたい内容であった。

② 西東京市、深谷市の給食事業者撤退問題など

報告者；実行委員会委員・NPO 法人官製ワーキングプア研究会理事長白石孝さん

学校給食を委託した事業者が辞退し次が見つからない、などの事例から、民営化も見直しの時期に来ているのではないか、という問題提起がなされた。

③ 公共サービスを担う民間介護事業者からの告発

報告者：けいはん医療生活協同組合萱島介護事業所副部長・介護福祉士 黒川佳代子さん

介護報酬の改定により、ヘルパーの報酬が切り下げられたり、逆に自己負担額が増えたりする結果、介護事業が成り立たなくなりつつあるという実態を、ヘルパー歴20年の黒川さんからご報告いただいた。かつては公務員ヘルパーという職が存在したが、介護保険

制度になってからはほとんど見られない。公共サービスはどうあるべきか、誰もが自分や家族に関係してくる問題として考える必要がある。

4 まとめ

最後に、力強い「集会宣言」を採択して大阪集会を終えた。

自治体で働く非正規労働者や委託・指定管理の事業所で働く労働者の惨状を放置せず、労働条件の改善を求めて自治労、自治労連、教育合同労組など所属の違いを乗り越え、自治体議員、学者、弁護士などと共に力を合わせて「なくそう！官製ワーキングプア」大阪集会に結集された皆さんに感謝するとともに、今後への希望に繋がる出逢いをお世話できたことは何よりだと思う。

今年（2026年）は11月15日（日）に開催することが決まっており、実行委員会もそれに向けて始動している。ぜひお越しいただきたい。

第13回 **なくそう！官製ワーキングプア大阪集会**

2025年 **10月4日** 日 10:00-16:45
参加費500円 エル・おおさか

分科会 10:00～12:00 分科会1～3 受付：本館6階大会議室	全体会 13:00～16:45 全体会 「人手不足 公募しても集まらない 会計年度任用制度はもう限界」
--	--

共催

- 非正規労働者の権利実現全国会議 ●FPD-労働と人権研究所-セター大阪
- FPD-官製ワーキングプア研究会 ●FPD-働き方ASHET
- 非正規公務員Voices(ヴォイスズ)
- 民主法律協会 ●大阪労働者弁護団

後援

- 全国公立大学教職員連合(公大通)

賛同団体

- 公務非正規女性全国ネットワーク(はむねっと)

主催：なくそう！官製ワーキングプア 大阪実行委員会
お問い合わせ nakusoukwp@gmail.com
072-723-9800